

ニュースレター

いりおもての森から

令和3年12月

No 62

イタチキ川合流地点

それぞれの思いを胸に西表島を横断

船浦中学校 大原中学校 伝統行事「西表島横断」を支援

10月30日(土)に船浦中学校、11月13日(土)に大原中学校の三大行事「西表島横断」を支援しました。



【出発前に記念撮影（船浦中学校）】

この西表島横断は、郷土理解を図り、たくましく生きる力を身につける。助け合う心、励まし合う心を育て協調性を養い、同時に目標達成のための忍耐力を養う。協力してくれた方々を通して感謝の心を育む。西表島の自然について理解を深め、自然への畏敬の念や保護する心を育てることを目的としており、当センターが作成した西表島での自然環境教育カリキュラムのプログラムの一つでもあります。

当日は、関係者を含め船浦中学校総勢91名、大原中学校総勢77名が西表島横断に挑戦し、10月30日、11月13日ともに曇り空の下、時折霧雨が降りましたが、暑すぎず寒すぎず絶好の横断日和となりました。

夜も明けきらない時間から浦内川河口に集合し、出発式を行った後に、遊覧船

で出発し軍艦岩に到着、各班に分かれて出発し、いよいよ西表島横断の開始です。軍艦岩からゴールの大富口まで12・2kmの険しい道のりを途中、マリウドウの滝、カンピレーの滝を眺めながら順調に進み、イタチキ川合流地点で各班それぞれに楽しい昼食を取りました。

昼食後は難所が連続しますが、生徒達は難所もどこ吹く風で途中、急傾斜地や岩場など足場の悪いところではお互いが声を掛け合うなど一生懸命でした。

生徒達は、滑ったり転んだりしながらも12・2kmの道のりを約8時間半から9時間半かけて無事踏破し、一生の思い出になったようです。

解散式では、最初はゴール出来るか不安だったがゴール出来た達成感や保護者をはじめ地域の方々への感謝の言葉を述べ、生徒代表の挨拶がとても印象的でした。



【出発前に記念撮影（大原中学校）】

沖縄森林管理署、西表森林生態系保全センターは今後も学校の伝統行事など積極的に協力・支援していきます。



【横断中に咲いていたイリオモテソウ】



【カンピレーの滝を数珠つなぎで歩く】

関係機関が一堂に会して登録を祝う

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産登録記念式典が開催される

11月19日、沖縄県豊見城市の沖縄空手会館において、沖縄県主催による「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録にともなう記念式典が沖縄県、環境省、林野庁、国頭村、大宜味村、東村、竹富町、団体、個人など150名を超える関係者出席のもと盛大に行われました。

オープニングでは、女流組踊研究会「めばな」による「かじやでいふう節」が演じられたあと、照屋沖縄県副知事による主催者挨拶、環境省奥田自然環境局長、天羽林野庁長官（小島九州森林管理局長代読）、塩田鹿児島県知事（ビデオメッセージ）より祝辞が送られました。その後、やんばる西表島から喜びのメッセージがスクリーンに放映され、世界遺産一覧表記載認定書（レプリカ）が国頭村、大

宜味村、東村、竹富町に環境省奥田自然環境局長より手渡されました。各町村長から、世界自然遺産登録にあたっての関係機関へのお礼と今後の取り組みについて力強い挨拶がありました。この記念式典で、世界自然遺産大使として夏川りみさん、仲間由紀恵さん、知花くららさん、ryuchell（りゅうちえる）さん、バンド「HY」メンバーに照屋沖縄県副知事より任命書が手渡されました。

大使の方々のそれぞれ各分野で「情報発信を行いたい」という言葉が印象的でした。また、県は登録に貢献した団体や個人に感謝状を渡しました。

凶画コンクール表彰式では、やんばる・西表島の地区ごとに県知事賞（各1名）、環境部長賞（各5名）が照屋沖縄県副知事より贈られました。

最後に関係者、世界自然遺産大使、感謝状受賞者、凶画コンクール受賞者で記念撮影が行われ式典を終了しました。

なお、式典終了後、環境学習と題し出席者らによるやんばる（沖縄島北部）の遊覧飛行が行われました。「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の先人から受け継いだ世界に誇る豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐことの大切さを感じました。



【世界遺産一覧表記載認定書を受け取った関係町村長ら】



【みんなで記念撮影】

被害地中央部はいまだ稚樹発生を確認できず

仲良川・仲間川のマングローブ林台風被害地調査

仲良川および仲間川のマングローブ林台風被害地については、最大風速65〜70mの気象観測史上1、2位を記録した平成18（2006）年9月の台風13号及び平成19（2007）年9月の台風12号により、仲良川では（西表国有林155い

林小班）0・70ha、仲間川でも国有林外3・50ha、国有林内（南風見国有林173い林小班）1・85haの2箇所、マングローブ林内にオヒルギなどの風倒木が大量に発生するなどの被害を及ぼし、約15年が経過しています。

当センターは、今後、両被害地がどのように再生していくのか継続的に調査しており、毎年度定期的に、地形や植生等の変化など目視観察と定点撮影等の調査を行っています。

今年（令和3（2021）年度）は10月14日に仲良川、



【15年が経過した台風被害地の状況（仲良川）】



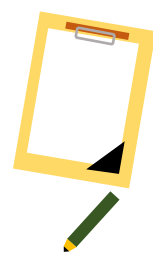
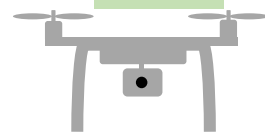
【満潮時の台風被害地（奥が仲間川本流）】

11月1日仲間川の調査を行いました。

仲良川の調査結果については、中央部周辺は蛇行する水流と土泥化が進行し、オヒルギ等の稚樹の発生は確認されませんでした。また、被害地林縁部では下流部を中心にオヒルギの稚樹の発生と成長が確認されました。

仲間川の調査結果については、マングローブ林立ち枯れ箇所周辺でオキナワアナジャコのシヤコ塚による土砂の堆積や複数本の新たなオヒルギ枯損木を確認しました。

台風被害地箇所では、中央部周辺部は土泥化が進行し、オヒルギ等の稚樹の発生は確認されませんでした。また、被害地下流域周辺の林縁部ではオヒルギの稚樹の発生が確認されました。



【泥の中を悪戦苦闘の職員】



【林縁部にはオヒルギの稚樹が発生、しかし中央部には全く確認されない】

仲良川調査箇所で新たな立ち枯れ木を確認

浦内川・仲良川のマングローブ林立ち枯れ木調査

西表島の浦内川及び仲良川流域の一部のマングローブ林（国有林内）において、オヒルギがまとまって立ち枯れしている状況を平成20（2008）年に浦内川で、平成21（2009）年に仲良川で確認しました。

当センターは、平成22（2010）年度から平成25（2013）年度まで両河川の立ち枯れ被害箇所を原因究明のため調査を行い、土砂の流入が原因とする一定の見解を示し、平成26（2014）年度に最終取りまとめと地元

説明会を実施した経過があります。平成26（2014）年度以降は、この被害地がどのよう再生していくのか林内および周囲の状況の経過観察を毎年行っています。今回（令和3（2021）

年度）は10月4日に浦内川、10月14日に仲良川を調査しました。

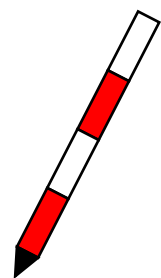
浦内川沿いの一部の立ち枯れ箇所では、これまでの土砂の堆積が進んでいましたが、気象や河川の変化等の原因は確定できません。

仲良川沿いでは、マングローブ林立ち枯れ箇所周辺

でオキナワアナジャコの新ヤコ塚による土砂の堆積や複数本の新たなオヒルギ枯損木を確認しました。



【移動は船で】



【オヒルギ立ち枯れ木の状況（浦内川）】



【定点撮影箇所の補修】



【オヒルギ立ち枯れ木の状況（仲良川）】

マングローブの植物紹介



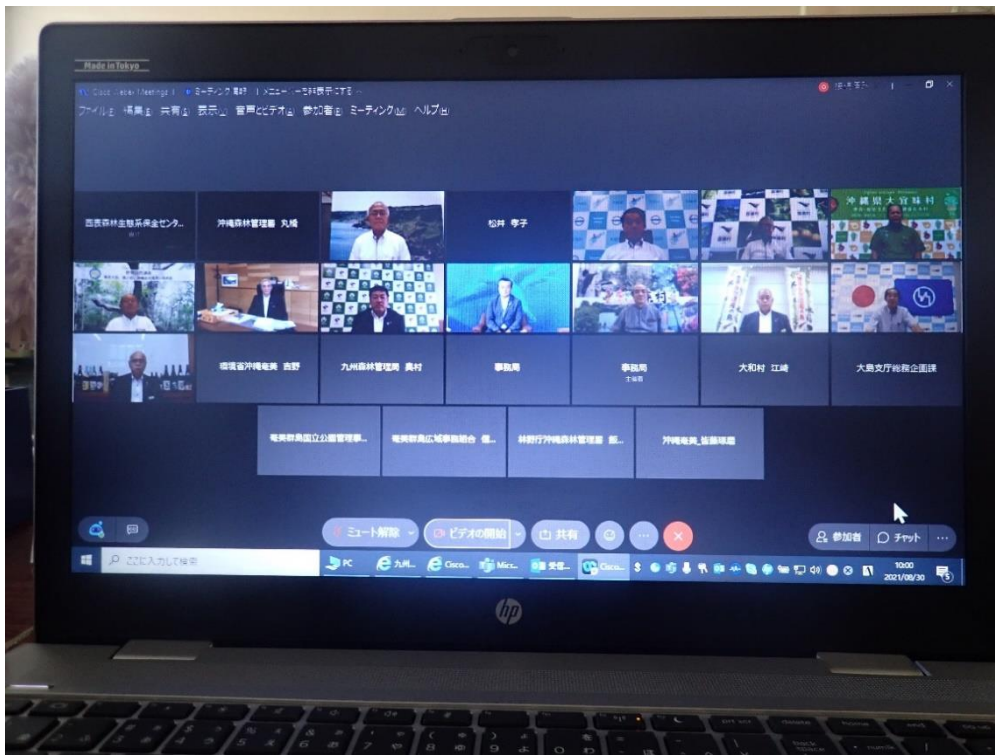
【陸域近くに生えるヒルギモドキ】
陸域部に生育し、高さは西表島では約5m程度になります。花びらが5枚の小さな花をつけます。葉は両面で光合成ができ、葉の先は凹形（等面葉）になっており、葉の先は凹形です。西表島では、船浦湾など西部地域でよくみられます。
（出典：西表島の植物誌）

ヒルギモドキ

マングローブ林の最も西表島では約5m程度になります。花びらが5枚の小さな花をつけます。葉は両面で光合成ができ、葉の先は凹形（等面葉）になっており、葉の先は凹形です。西表島では、船浦湾など西部地域でよくみられます。

観光管理、森林管理など4課題への対応を確認

第1回「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島世界自然遺産地域連絡会議」開催



【全12関係市町村首長が出席】

8月30日、令和3年度第1回奄美大島、徳之島、沖縄北部および西表島世界自然遺産地域連絡会議がオンラインにより開催され、沖縄、鹿児島両県、竹富町長をはじめとする関係12市町村首長、環境省、林野庁等関係行政機関が出席しました。

会議では、7月の世界自然遺産登録正式決定に伴い、登録された区域の保護管理に向けて、ユネスコの諮問機関・国際自然保護連合（IUCN）から指摘のあった観光管理、ロードキル対策、河川再生、森林管理の4つの要請事項について、沖縄県等担当行政機関で分担し、現況や対策の進展などをまとめ来年12月までに世界自然遺産委員会に報告することを確認しました。

また、7月に世界自然遺産に登録されたことに伴い、

これまで活動してきた世界自然遺産候補地地域連絡会議の名称を世界自然遺産地域連絡会議に変更しました。

最後に、関係する12市町村の全首長から、今回の世界自然遺産登録に対する各自治体の期待と力強い意気込みが述べられ終了しました。

マングローブの植物紹介



【筍根を伸ばすヒルギダマシ】

ヒルギダマシ

マングローブ林の最も海側に生育します。高さは熱帯地方は20mを超えるようですが、西表島では2m程度で円盤状に広がっています。地中から呼吸根（筍根）を出しますが、マヤプシキの筍根よりも細くて軟らかいです。葉は対生し、細長い卵形をしていて、根から吸い上げた塩を葉の裏面から排出します。

（出典：西表島の植物誌）



【水面に映るマングローブ林】

わたしの秋！ぼくの秋！島の秋！
 いろいろな秋を見つけました！

西表小中学校で「秋みつけ」



【沢山の感動を発見した西表小中学校小学部1～6年生の皆さん】



【元気いっぱい林内を散策】

西表小中学校は、祖納岳（西表国有林138は林小班）で1年生から6年までの小学部児童19名、教諭5名が参加し、学校行事「秋みつけ」が行われました。

本行事は、西表島のような自然を児童自ら探索し、自然に親しみながら季節の変化に気づくことを目的に行われており、林野庁として沖縄森林管理署租納森林事務所小崎森林官、国有林職員OB加島幹男さん、当センターから下田所長、永山生態系指導官の4名が講師

として参加しました。現地到着後、小崎森林官から林内での行動の注意やオキナワウラジロガシなど代表的な樹木の説明を受けた後、いよいよ児童達は林内へ。児童達が元気に林内を散策する中、目的のひとつであったオキナワウラジロガシの大きなどんぐりは、イノシシに食べられてしまい見つけることにとても苦労しましたが、シイの実やキノボリトカゲを見つけたり、ゴムカズラの樹液を指で擦ってゴム状になることに驚いていました。

また、センター職員らによる葉っぱの特徴や名前の由来などの説明に続き、質問コーナーでは見つけてきたキノコやカタツムリの名前、西表島のドングリの種類や樹木の雄花、雌花の違いなど沢山の質問が飛びだし賑やかな時間となりました。

今回の行事をおし、西表島の森の感動を沢山発見し体感した児童にとって、自然愛と地元愛を育む有意義なものとなりました。

「西表樹木かるた」を用いた森林環境教育の普及啓発を公表 令和3年度国有林野事業業務研究発表会

日本森林レクリエーション協会会長賞受賞

林野庁主催による「令和3年度国有林野事業業務研究発表会」が、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン方式で、11月18日（木）に開催されました。

本大会では、全国7森林管理局から森林技術、森林保全、森林ふれあいの3部門に、ドローンを利用した層積検知の簡素化やシカ捕獲

ムにおけるICT通知システムへの導入、VR技術を活用



【西表島植物かるた（改良版）】

した森林ふれあい体験等の取り組みなど、多岐にわたる内容の21課題が発表されました。

九州局からは、森林技術部門に森林技術・支援センター「スギ無下刈り試験地

におけるフォロアアップ調査について」、森林保全部門に沖縄森林管理署「低コスト芝生の作成と活用」、

当センターから「西表樹木かるたを用いた森林環境教育の普及啓発」の3課題が発表されました。

当センターの発表内容は、西表島の小学校における森林環境教育の現状把握と、

新たな森林環境教育に係わる教材として開発した「西表樹木かるた」の試行とデータ収集、改良の経過と今後の方向性をまとめた取り組みについて発表しました。

審査の結果は、林野庁長官賞最優秀賞他成績が発表され、当センターは日本森

林レクリエーション協会会長賞を受賞しました。また、沖縄森林管理署も日本森林林業振興協会会長賞を受賞しました。

講評については、「現状把握、作成方針の決定、使用後の意見把握、意見を踏まえた改良版の作成という流れで、地域と関わり合いながらPCDAサイクルを

実践しているのが特徴であり、学校の先生方も工夫しながら活用している状況がよく分かった。今後に向けては、今回作成したかるた

が地域に定着するように、フィールドでの活動とセットで使用できるようなプログラム全体の充実を図るなど、

学校と連携しながら取り組まれることに期待する」とありました。

最後に、当センターの発表に関して、昨年来コロナ禍における厳しいスケジュールの中、アンケートや

試作品の実演など取り組んでいたいただいた西表島の中原、

古見、上原、白浜の4小学校と西表、船浮の2中学校の教職員、児童生徒の皆さんのご理解とご協力に深く感謝いたします。



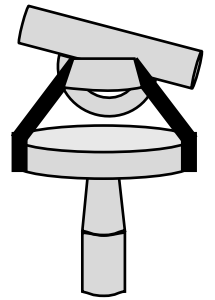
【発表スライド】



【リモートで発表会に参加する参加者の皆さん】

林野庁ってどんなところ？

船浦中学校職場体験を受け入れ



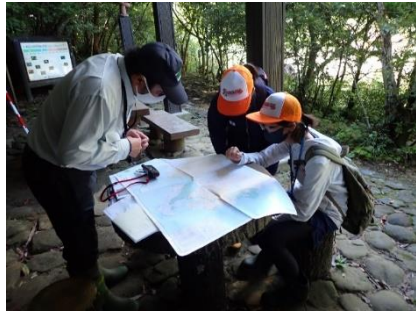
西表森林生態系保全センターでは、昨年度から沖縄森林管理署租納森林事務所と共同で竹富町立船浦中学校1年生の職場体験を受け入れています。

今年度も8月25日（水）に大谷寧々さんと下山心夏さんの2名の職場体験を受け入れました。



【ドローンで記念撮影】

することや、働く人々からそれぞれの職業について話を聞くことにより、望ましい職業観や勤労観を身につける。②主体的に課題を見つけ、解決する能力を身につける。③社会的に必要な常識やマナーなど「他との関わり方」を学ぶという3つのことをねらいとし、西表島にある会社等に数名ずつに分かれて職場体験が実施されています。



【自分たちがいる場所を図面で確認】

生徒たちは、職場体験当日までに、働くとはどういうことかや職業について事前に調べ、職場体験をするにあたってのマナー講習を受講して臨んでいます。職場体験当日は、沖縄森林管理署や当センターの業務概要を簡単に説明した後、標識（看板）の点検を兼ねた林野巡視及びコンパス測量、図面作成の実習を実施しました。生徒達は、8月の暑い中の業務でしたが、暑さにも負けず、真剣に業務に取り組んでいました。

昨年度同様、当日の生徒の真剣に学ぶ姿勢もそうでしたが、事前にあった当日の業務内容等の電話確認や聞き取りの際の言葉づかいもとても丁寧でした。暑い中での職場体験、本当にお疲れ様でした。

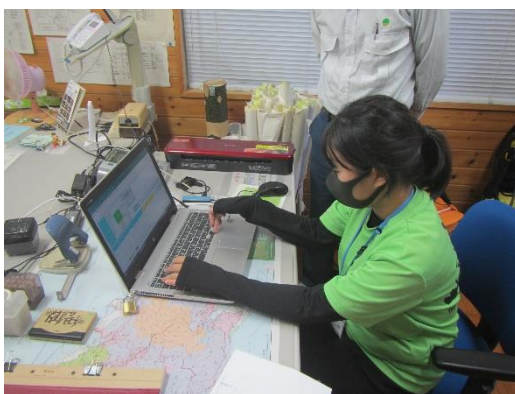
西表森林生態系保全センターでは、地元の小中学生の職場体験を受け入れておりますので、是非お声がけ下さい。



【気泡を目印に合わせて水平に】



【コンパス測量中】



【測量データを入力中】

続・とつていいのは写真だけ

西表島の希少野生動植物の密猟・盗掘等を防止するための普及啓発活動を実施

ニュースレターの前号の記事でお伝えしておりましたが、今年も西表島の希少な動植物を守るために、環境省、竹富町、八重山警察署、沖縄森林管理署、当センターが連携し合同パトロールを計画し、7月の4連休をかわきりに合同パト

ロールを予定しておりましたが、台風6号が襲来したため、やむなく中止としました。仕切り直しとばかりに8月7日(土)、9日(月)に今年度最初の各関係機関合同のパトロールを実施しました。パトロール当日は、

昆虫採集と思わしき車輛等はありませんでしたが、パトロールをしながら観光客に普及啓発のチラシを配布し、パトロールとあわせて各主要なポイントに「とらないで西表島の希少な動植物」【密猟・盗掘監視強化中】といった工夫を凝らし

たのぼり旗を設置し、今回の合同パトロールを終了しました。なお、今後も定期的に各関係機関合同のパトロールを実施することにしていきます。



【希少種の一つ タイワンエビネ】



【のぼり旗を設置(西表島東部)】



【観光客に普及啓発のチラシを配布し説明中】



【パトロール中(西表島西部)②】



【パトロール中(西表島西部)①】



秋の西表島の希少野生動植物の密猟・盗掘等を防止するための普及啓発活動を実施

本年7月26日に世界自然遺産登録された西表島は、関係者の間ではマルバネクワガタ採集の「聖地」と呼ばれ人気を集めていると新聞記事の一節でみましたが、この時期、マルバネクワガタ等の特定の昆虫を求め沢山の昆虫採集者が来島し主に夜間に入林しています。この時期は夜間、森の中からヘッドライトなどの光が差したり、登山道の入り口などに沢山の車輦が停まっている光景は、その目的を知らない人が見たら異様な光景かも知れません。



【環境省職員と合同で入林者に普及啓発中】

傾向もあり、過去には昆虫採集のために立木等を損傷する行為も発見されていることから、昨年度から環境省、竹富町、八重山警察署、沖縄森林管理署、西表森林生態系保全センターが連携し、この時期は一定期間の夜間パトロールを実施しています。

まず9月29日（火）にWEBも併用した活動前の事前打ち合わせが実施され、10月15日（金）から11月2日（火）までの約3週間ほぼ毎日、主要な地点での合同及び各機関の日替わりによる夜間パトロールを実施し、普及啓発活動として入林者に対して所定の手続きの説明、安全に対する注意喚起及びイリオモテヤマネコのロードキル防止等の注意喚起も合わせて行いました。

昨年度の夜間パトロールを経て抑止力向上を目的とし工夫した点は、8月と同様に各主要な駐車地点等へのぼり旗を設置、さらに数地点に監視カメラも設置し、パトロール実施直前に主催である環境省西表自然保護官事務所が地元紙へのプレスリリースを実施しました。12月7日（火）に環境省西表自然保護官事務所WEBを併用した活動の総括会議が実施され、「昨年度から合同で夜間パトロールを集中的に実施している成果が少しずつ現れてきているのではないか」、「夜間パトロールに参加した延べ人員や労力を算出してみてもいいのでは」等の意見が出されました。

今後密猟・盗掘の防止と普及啓発のために定期的に関係機関合同のパトロール等が実施される予定で、当センターも引き続き積極的に協力していく予定です。なお、国有林に入林する際は、事前に入林届や保護林調査届出の許可申請等が必要となります。当然のことながら届出や許可証があるからといって何をやってもいいということにはなりませんのでご注意ください。また、夜間の入林は、ヘッドライト等があったとしても昼間と比較して危険度が増すのは当然のことです。悪天候時などは、西表島特有の気候もあり小川であっても急な増水が考えられるため、入林を控えるようお願いいたします。

ゆんたく

▼先日、ある人から「〇〇やきそば獄激辛」の話を聞いた。いわゆる、食べると「辛いではなく、痛い」とのこと。本当だろうか？と半信半疑で、食べてみた▼一口食べただけで喉がやけるような痛みで襲われ、箸が止まった。完食を諦めかけたが、マヨネーズで味を変えたり、牛乳を飲んで辛さを和らげたり、時間をかけて完食した▼当センターの業務は、各種モニタリング調査、外来種対策、森林環境教育の推進など多岐に渡り、どの業務も長い年月の調査が必要である。大きなことを言ってしまうが、この成果は、西表島の自然を後世に伝えるために有益なものだと確信している▼重要な調査だが、炎天下の中、体力を使う辛い作業も多い。辛さを和らげるには、調査時期の検討やドローンを活用した調査など、様々な方法を試すことも必要である▼「辛い」は「からい・つらい」と読み、忍耐が必要。しかし、横棒を一本入れると「幸せ」に変わる。私たちの仕事は「辛さ」を「幸せ」に変える横棒だ（凧）



編集者一言
表紙はイタチキ川合流地点。
横断時に昼食をとった場所です。
裏表紙はマリユドゥの滝。
軍艦岩から30分ほど歩くと見ることが
できます。

裏表紙：マリユドゥの滝

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター
〒907-0004 沖縄県石垣市登野城55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL：0980-88-0747 FAX：0980-83-7108

URL: https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html

